

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：がん性疼痛看護

平成 24 年 3 月改正

平成 26 年 7 月訂正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. がん性疼痛を有する患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練する看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. がん性疼痛看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. がん性疼痛看護分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. がん性疼痛に関する最新の知識を持ち、がん性疼痛を有する患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断し、個別的なケアを計画、実施できる。
2. がん性疼痛に用いる薬剤と薬理作用について理解し、それらを適切に使用し、効果を評価できる。
3. がん性疼痛を有する患者・家族のセルフケア能力を高め、生活の質を維持・向上できるように、適切な看護援助を行うことができる。
4. がん性疼痛を有する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. 病院等の組織や医療サービス提供システムを理解し、より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. がん性疼痛看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	5. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	6. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	4. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. がん看護学総論	必修	30		90
	2. 腫瘍学概論1	必修	15		
	3. 腫瘍学概論2	必修	15		
	4. ヘルスアセスメント	必修	15	小計	
	5. がんの医療サービスと社会的資源	必修	15	90	
専門科目	1. がん性疼痛看護概論	必修	15		270
	2. がん性疼痛の病態生理	必修	30		
	3. がん性疼痛に関する臨床薬理	必修	30		
	4. がん性疼痛に対する治療と看護	必修	45		
	5. がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案	必修	30		
	6. がん性疼痛を有する患者・家族への心理・社会的援助	必修	15	小計	
	7. がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援	必修	15	180	
学内演習・臨地実習	演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180	小計 240	
			総時間数	615（+305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 基 礎 科 目	1. がん看護学総論	がん看護の専門性とがん患者・家族の特徴を理解する。	1) がん看護の専門性、発展と課題 2) がん医療チームにおける看護の役割 (1) 他職種の専門性の理解 (2) 医療チームにおけるコミュニケーション技術 (3) 医療チームにおける看護師の役割 3) がん患者・家族の特徴 (身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者のQOL、がん患者の家族、サバイバーシップ等) 4) がん患者を理解するために必要な概念 (セルフケア、ストレス・コーピング、危機理論、障害受容過程、サバイバーシップとヘルスケアグループ、保健行動モデル、家族看護理論等) 5) がん患者とリハビリテーション (1) 治療に伴うリハビリテーション (2) 機能維持のためのリハビリテーション 6) がん患者とヘルスプロモーション 7) 緩和ケア概論 (1) ホスピス・緩和ケアの歴史と理念、現状と展望 (2) トータルペインの概念と全人的な理解	30
	2. 腫瘍学概論 1	がん看護実践に必要ながんに関する医学知識を理解する。	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (核、細胞質、細胞膜) (2) 細胞の発育過程 (分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達等) (3) がん細胞の特徴 (発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、ゲノム) 2) がんの疫学 (1) 統計 (罹患率、死亡率) (2) がん登録システム 3) がんの診断 (1) 診断方法 (画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理、遺伝子診断等) 4) がんの予防と検診 (1) がんのリスク因子 (2) がん検診の有効性	15
	3. 腫瘍学概論 2	がん看護実践に必要ながんに関する医学知識を理解する。	1) がんの集学的治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法 (3) 放射線療法 (4) 免疫療法 2) 各種疾患の特徴 (乳がん、肺がん、消化器がん、血液がん等)	15

※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん化学療法看護との合同講義が可能な単元

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	4. ヘルスアセスメント	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	1) アセスメントプロセス 2) フィジカルアセスメント (1) 呼吸機能 (2) 循環機能 (3) 脳・神経機能 (4) 栄養代謝状態 (5) 感覚・運動機能 3) 心理・社会的アセスメント 4) 家族のアセスメント	15
	5. がんの医療サービスと社会的資源	がん患者の療養の場の特性や在宅療養のために必要な基礎知識について理解する。	1) がんの医療政策 (がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がん登録等の推進に関する法律、診療報酬等) 2) がん患者と家族が活用できる社会資源 (高額療養費制度、在宅酸素療法等) 3) がんと医療経済 (治療費、就労問題等) 4) 在宅医療の仕組みと法的枠組み 5) 在宅医療を支える職種間の連携 6) 在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割	15

※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん化学療法看護との合同講義が可能な単元

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. がん性疼痛看護概論	がん性疼痛を有する患者の特徴を踏まえ、患者・家族の生活の質を維持・向上するための認定看護師の役割を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者の特徴 2) がん性疼痛を有する患者への看護の役割 3) がん性疼痛看護認定看護師の役割 (1) がん性疼痛看護認定看護師の役割と機能 (2) 役割と機能を発揮するための姿勢や手法	15
	2. がん性疼痛の病態生理	がん性疼痛の病態生理を理解する。	1) 痛みの生理学 (1) 感覚の中での痛覚の意義 (2) 神経系の解剖生理 (3) デルマトーム (4) 感覚受容器の中の伝導路 (5) 鎮痛機構 (6) 精神状態と痛み (7) 痛みと免疫 (8) 痛みの悪循環 2) 痛みのメカニズム (1) 急性疼痛 (2) 慢性疼痛 (3) 侵害受容性疼痛 (4) 神経障害性疼痛 3) がん性疼痛の原因、分類、特徴 (1) がん性疼痛の分類・特徴 (2) 病態に関連した痛みの特徴 (3) 骨転移痛 (4) がん治療に関連した痛みの特徴	30
	3. がん性疼痛に関する臨床薬理	がん性疼痛の薬物療法に用いる薬剤の薬理学的知識と薬剤管理方法を理解する。	1) オピオイド・NSAIDs の体内動態、薬効・毒性 2) 鎮痛薬の副作用に使用する薬剤 3) オピオイド・スイッチング 4) 鎮痛補助薬 5) その他の疼痛緩和に使用する薬剤 6) 鎮痛薬の使用法 (経口、経直腸、経皮、皮下・経静脈持続注射、硬膜外、くも膜下) 7) 麻薬及び向精神薬取締法に関する規定	30

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	4. がん性疼痛に対する治療と看護	<p>がん性疼痛に対する様々な治療方法の特徴と看護を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) WHO方式 (2) 疼痛緩和治療の考え方 (3) 鎮痛薬使用の原則 (4) 鎮痛薬の副作用対策 (5) 治療の実際 (6) 治療を受ける患者への看護 2) がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ <ol style="list-style-type: none"> (1) 非薬物的アプローチの重要性 (2) 非薬物的アプローチの方法と選択 <ol style="list-style-type: none"> a. マッサージ・リラクゼーション・巻法・ポジショニングの実際 b. リンパマッサージ等の適応と禁忌の理解 3) 神経ブロックと看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 4) がん性疼痛に対する放射線療法 と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 5) がん薬物療法と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 6) 手術療法と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療の適応、方法、実際 (2) 治療を受ける患者への看護 7) その他の治療（東洋医学、代替・補完療法等） 8) 患者の特性に応じたケア <ul style="list-style-type: none"> ・年齢による特性（小児、AYA 世代、高齢者） ・特殊な治療・病態（透析治療、フレイル、臨死期等） 	45
	5. がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案	<p>がん性疼痛を有する患者に対する根拠に基づく包括的なアセスメントと計画立案・評価の方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん性疼痛を有する患者の初期アセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 2) 継続的アセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 痛みのアセスメント (2) 副作用のアセスメント (3) 全人的アセスメント 3) がん性疼痛以外の症状のアセスメントとそのマネジメント方法（呼吸困難、消化器症状、精神症状、全身倦怠感等） 4) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) がん医療における倫理的問題 (2) がん性疼痛緩和に関わる倫理的問題と看護師の役割 (3) 倫理的問題のアセスメントと問題解決方法 5) 計画立案と評価の方法 	30

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	6. がん性疼痛を有する患者・家族への心理・社会的援助	がん性疼痛を有する患者が心身の機能を維持し、より自分らしく快適な生活を送ることを多側面から支援する方法を理解する。	1) がん性疼痛を有する患者への心理・社会的援助 (不安、抑うつ、怒り等) 2) がん性疼痛を有する患者の家族への援助 (1) 家族看護の概念 (2) 家族システムのアセスメントと援助方法	15
	7. がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援	がん性疼痛を有する患者・家族へのセルフケア支援方法を習得する。	1) セルフケア理論にそった患者・家族のアセスメント 2) 療養の場に応じたセルフケア支援計画の立案 3) 療養の場に応じたセルフケア支援・指導の方法 4) 患者・家族への教育的アプローチ (1) がん患者・家族の学習ニーズ (2) 教育計画 (3) 教育方法 (4) 教育評価	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	演習	講義で学んだ専門的知識・技術を深めるとともに、それらを統合し、水準の高い看護を実践するための能力を養う。	1) がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案演習 2) がん性疼痛を有する患者への非薬物的アプローチ演習 3) がん性疼痛を有する患者へのセルフケア支援演習 4) がん性疼痛患者に対する倫理的問題解決演習 5) 総合課題学習 (ケースセミナー等)	60
臨 地 実 習	臨地実習	講義・演習で学んだ専門的知識・技術を統合し、がん性疼痛看護認定看護師に必要な能力 (水準の高い看護実践・指導・相談) を養う。	1) がん性疼痛緩和における看護実践力を高める *2 事例以上の看護を展開する *少なくとも1 事例以上については系統的に評価する 2) 看護スタッフへの指導を通して、がん性疼痛緩和における効果的な指導能力を高める 3) がん性疼痛看護認定看護師等の相談場面の見学を通して、相談力を習得する	180